

**業務用 27 型 4K/HDR ディスプレイ “DP-V2730” を発売**  
**中継車・副調整室等の放送現場や映画・ドラマ等の映像制作向けにラインアップを拡充**

キヤノンは、業務用 4K ディスプレイの新製品として“DP-V2730”を 2023 年 2 月下旬に発売します。



DP-V2730



27 型小型設計で幅広い用途に使用可能  
\* 画像は卓上での作業イメージ



映像と信号情報を同時に確認できる  
HDR モニタリングアシスト機能 (イメージ)

新製品は、現行機種<sup>※1</sup> からコア技術である高画質ディスプレイ用エンジン、高精度アルゴリズムおよびパネル・バックライトシステムを刷新し、基本画質性能を大幅に向上させた 27 型 4K/HDR ディスプレイです。放送・映像制作現場はもちろん、オフィスや自宅をはじめとするリモート環境などのスペースの限られた環境まで、幅広いシーンで 4K 映像の確認・編集が可能です。ユーザーから好評を得ている 18 型の「DP-V1830」（2022 年 2 月発売）と同様に、HDR 規格基準<sup>※2</sup> を満たす高画質シリーズ製品として、放送・映像制作において多様化するワークスタイルや映像制作ワークフローをサポートします。

**1. 黒の表現力に優れた広色域・広視野角を実現**

キヤノン独自の画質技術により、最大・全白輝度 1,000cd/m<sup>2</sup> を実現しながら、黒の表現力を強化したことで、明部・暗部の混在する映像でも高コントラストな映像表示が可能です。また、ITU-R BT.2020<sup>※3</sup> の色域を忠実に再現した映像表示も実現しています。視野角による輝度や色の変化を抑える独自の光学設計により、複数の人が同時にモニタリングを行うことができ、正確かつ効率的な映像確認をサポートします。

**2. 多様化する制作環境に幅広く対応する 27 型サイズ**

新製品は、24 型の「DP-V2421」と比較して、画面サイズが約 1.3 倍広くなることで視認性が向上しています。同時に、本体サイズ差を幅約 41mm に抑えたスリム設計<sup>※4</sup> を実現しており、スペースの限られる放送現場の中継車や副調整室での 4K 映像確認に好適です。さらに、映像制作現場においてもカラーグレーディングなどの映像編集用として使用されている 30～32 型ディスプレイよりも小型サイズであることから、オフィスや自宅などのスペースの限られた制作環境下での設置にも使用でき、多様化する編集スタイルに対応します。

**3. HDR 映像の輝度や色を数値で可視化できる HDR モニタリングアシスト機能などを搭載**

現行機種においても好評の HDR モニタリングアシスト機能により、入力映像と各種信号情報をディスプレイ 1 台で同時に確認できるため、視覚的かつ効率的な映像確認・編集が可能です。また SDI/HDMI 端子からの入力映像のマルチ画面表示<sup>※5</sup> やスイッチアウト機能<sup>※6</sup> などにより、機材数を抑えたコンパクトな撮影体制での映像制作に貢献します。

※1. 「DP-V3120」（2019 年 11 月発売）、「DP-V2421」「DP-V1711」（2018 年 4 月発売）および「DP-V2411」（2017 年 12 月発売）。

※2. 「EBU TECH3320 USER REQUIREMENTS FOR VIDEO MONITORS IN TELEVISION PRODUCTION Version4.1」および「Dolby Vision Certified Mastering Facilities Colorgrading Systems and Monitors V1.4」に基づき当社試験条件で測定。

※3. ITU（国際電気通信連合）策定の UHDTV 放送方式の映像信号を規定する勧告。

※4. 「DP-V2730」の幅は約 635mm、「DP-V2421」の幅は約 594mm です。

※5. 入力映像の解像度やフレームレート、伝送方式などによる表示制約があります。

※6. スwitchアウト機能を有効にするためには、有償アップグレードライセンスの購入が必要です。

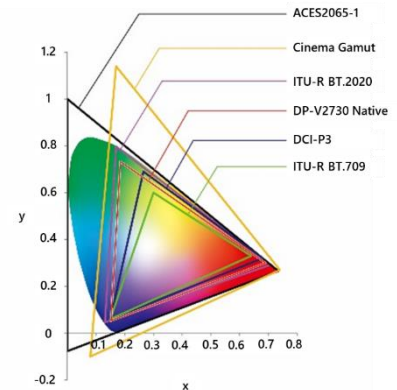
製品名	希望小売価格	発売日
DP-V2730	オープン価格	2023年2月下旬

- 
- 一般の方のお問い合わせ先 : キヤノンお客様相談センター 0570-07-0032
  - ディスプレイホームページ : [canon.jp/v-display](https://canon.jp/v-display)

## 〈主な特長〉

### 1. 黒の表現力に優れ広色域・広視野角を実現

- 最大・全白輝度  $1,000\text{cd/m}^2$  を実現しながら全黒輝度  $0.001\text{cd/m}^2$  を達成し、コントラスト比 100 万 : 1 を実現。
- 明部と暗部の境界でもめりはりの利いた高コントラスト表示。
- ITU-R BT.2020 の色再現範囲を忠実に表示する広色域。
- 視野角による輝度や色の変化を抑える独自の光学設計。
- 「DP-V1830」と同様のコア技術（高画質ディスプレイ用エンジン、高精度アルゴリズム、パネル・バックライトシステム）の採用により、同機種と同じ色味を実現。



ITU-R BT.2020 を忠実に再現する広色域

### 2. 多様化する制作環境に幅広く対応する 27 型サイズ

- 中継車やスタジオの VESA<sup>※1</sup> マウントへの設置や卓上設置での使用が可能。
- ポストプロダクションの編集室はもちろん、オフィスや自宅のデスク上などスペースの限られた制作環境下でも使用可能。
- 収録中や編集時もファンの音が気にならない効率的な放熱構造。
- 撮影現場でも大音量での出力が可能なステレオスピーカー（最大出力は左右ともに 2W）を内蔵。

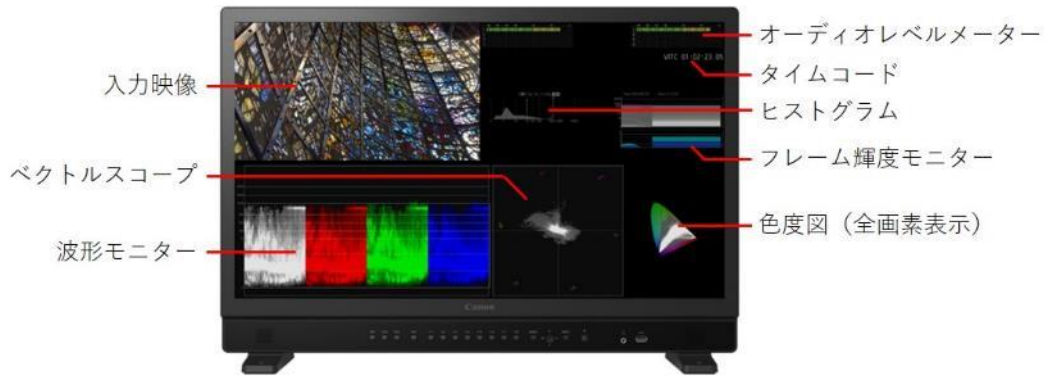


放送現場から映像制作現場まで多様化する制作スタイルに幅広く対応可能

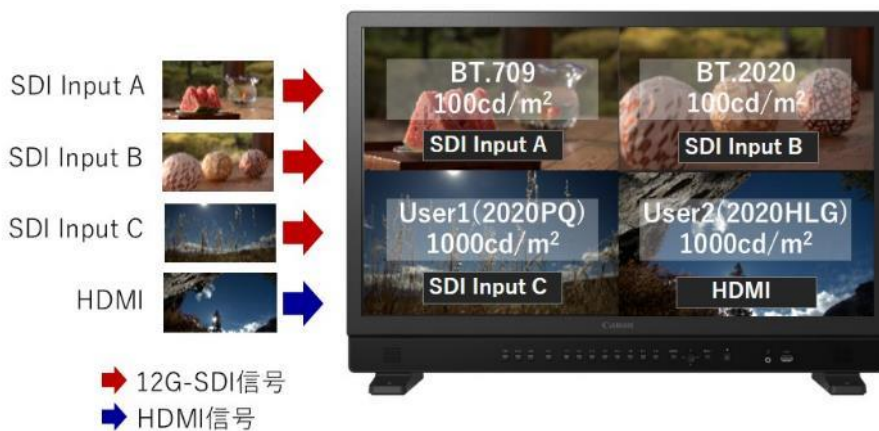
※1. Video Electronics Standards Association の略。映像機器の周辺設備等に関する国際標準規格を定める業界団体。

### 3. HDR 映像の輝度や色を数値で可視化できる HDR モニタリングアシスト機能などを搭載

- 映像の YRGB 信号レベルを波形モニター上に同時表示する「パレード表示」。
- 映像全体が想定色域範囲内にあるかを確認するため全画素の色情報を色度図上に表示する「色度図表示」。
- 最大輝度／平均輝度の遷移表示が可能な「フレーム輝度モニター」。
- 輝度の度数分布の確認が可能な「ヒストグラム」。
- 波形モニターや色度図などの各種信号情報を映像上に重ねずに同時表示できる「マルチ情報表示」。
- 12G/6G/3G/HD-SDI 信号と HDMI 信号の 4K/2K 映像信号を最大 4 画面同時表示できる「マルチ画面表示」。各画面の画質設定（ガンマ（EOTF）や色域など）も個別に設定可能。
- ディスプレイ本体背面の「MULTI FUNC.SDI OUT」端子を使用した「スイッチアウト」機能。



波形モニターや色度図などを同時表示できる「マルチ情報表示」(イメージ)



SDI 信号と HDMI 信号の 4K/2K 映像信号を最大 4 画面同時表示できる「マルチ画面表示」(イメージ)



MULTI FUNC.SDI OUT 端子によるスイッチアウト (イメージ)

### 〈製品仕様について〉

製品仕様の詳細はキヤノンホームページをご参照ください。  
<https://cweb.canon.jp/v-display/lineup/dp-v2730/>

## 〈ご参考〉

### 1. 4K 映像制作ディスプレイの市場動向

映像制作業界ではデジタル化に伴い、映画などの映画制作業界で 4K 映像への対応が急速に拡大しています。また、動画・音声をインターネット上で提供する OTT（Over The Top）サービス等の最先端の映像制作現場では、4K/HDR 映像の高画質なフォーマットへの対応も進んでいます。放送においても 4K/8K 放送が始まっており、入力から出力まで映像制作ワークフローの 4K/8K 化が進んでいます。高精度な映像制作機器の需要が高まるとともに、4K/8K 映像を忠実に再現できる高画質・高精細の 4K 映像制作用ディスプレイのニーズも高まっています。（キヤノン調べ）

### 2. IBC2022 での製品展示について

2022 年 9 月 9 日（金）から 12 日（月）までオランダ・アムステルダムで開催される国際放送機器展「IBC2022」のキヤノンブースにおいて、本製品を展示する予定です。